

人畜共通感染症—ヒトも罹る動物の病気

富永潔

山口臨技, 27(6), 16-19, 2003

主要な細菌性ズーノーシス病原体により県内で発生した"vero毒素産生性大腸菌感染症(子牛の赤痢)", "ブタのレンサ球菌(*Streptococcus suis*)感染症", "ウズラのサルモネラ症", "リスザルのエルシニア症(仮性結核症)"の4つの動物の病気を例に, 動物サイドからのズーノーシスに関する知見について述べ, 動物との接触, 特にふれあいの際には十分な注意が必要であることを示唆した.

マイクロプレートを用いたSalmonellaのH抗原検査方法の検討

富永潔

山口獣医学雑誌, 30, 69-74, 2003

検査の迅速化と多検体処理, ならびに経済的負担の軽減を目的として, マイクロプレートを用いたSalmonellaの鞭毛抗原(H抗原)検査方法について検討した. マイクロプレート法(M法)と従来法(試験管凝集反応法, T法)によりそれぞれ行ったH抗原検査成績は完全に一致したことから, M法の信頼性が確認された. また, M法における反応に要するスペース, 抗血清量, 不活化菌液量はT法の4~5分の1で, 非常に経済的のみならず, 一度に多数の検体を迅速に検査できる優れた方法であると考えられた.

感染症発生動向調査から見た山口県における性感染症の発生状況

矢端順子

山口臨技, 27(3), 5-9, 2003

感染症発生動向調査をもとに山口県の性感染症の発生状況をまとめ, 傾向と特徴を分析した. その結果, 性器ヘルペスウイルス感染症を除く3疾患は, 増加傾向を示していた. 特に性器クラミジア感染症については, 平成11年から平成13年にかけての増加率が, 全国では1.5倍に対し2.8倍であった. 年齢層の特徴として, 15~19歳の女性における感染は, 全国では1.7倍の増加に対し4倍に増加していた. また, 淋菌感染症については, 30~34歳の男性と25~29歳の女性の増加傾向が高く, 全国ではそれぞれ1.6倍と1.4倍の増加に対して, それぞれ2.6倍と3.6倍に増加していた. これらのことから, 山口県においては早急に効果的な予防対策を図る必要があると考えられた.